

■コメント

1. インフルエンザ

定点当たり報告数は5.14人と、3週連続して減少しています。報告数の減少は、学校が春休み期間中であった影響もあると思われますが、春休みが終わり新学期が始まると、例年報告数が再び増加し、小規模な流行が5月頃まで続く傾向がみられます。

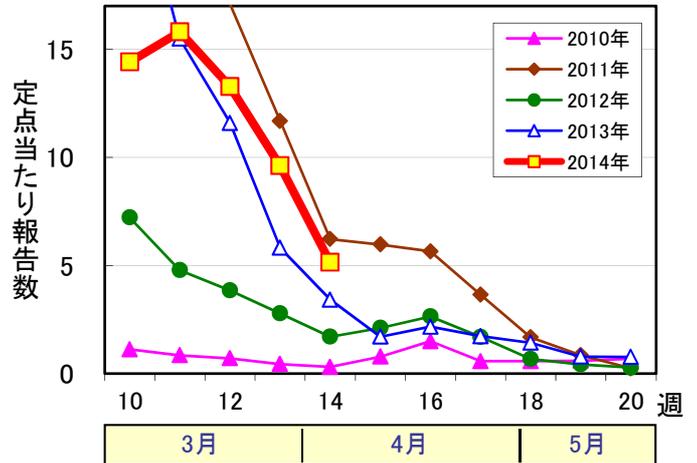
引き続き健康管理に注意し、手洗い・うがいの励行や咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

2. 感染性胃腸炎

定点当たり報告数は7.00人と、やや減少しています。また、市内の基幹病院2か所による迅速診断キット検査結果では、ロタウイルス報告数に増加のきざしが見られます。(次頁参照)

例年3～5月頃は、ロタウイルスを原因とする感染性胃腸炎が多くなりますので、注意が必要です。

インフルエンザの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	急増減										
												急増減	増減	微増減								
小児科	インフルエンザ	190	5.14	3.04	▲	小児科	流行性耳下腺炎	9	0.38	0.68	▲	急増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減							
	咽頭結膜熱	8	0.33	0.18	▼	小児科	RSウイルス感染症	-	-	0.04		増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	1.50	1.17	◀	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		微増減	◀	◀	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減							
	感染性胃腸炎	168	7.00	8.53	◀	眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	0.80		横ばい	◀	◀	ほとんど増減なし							
	水痘	32	1.33	1.50	◀	基幹	細菌性髄膜炎	1	0.14	0.03		報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。										
	手足口病	-	-	0.54			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.03		<table border="1"> <tr><td>インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)</td><td>37</td></tr> <tr><td>小児科定点数</td><td>24</td></tr> <tr><td>眼科定点数</td><td>8</td></tr> <tr><td>基幹定点数</td><td>7</td></tr> </table>			インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37	小児科定点数	24	眼科定点数	8	基幹定点数	7
	インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37																				
	小児科定点数	24																				
	眼科定点数	8																				
	基幹定点数	7																				
伝染性紅斑	-	-	0.35		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.23		(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)												
突発性発しん	10	0.42	0.51		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-														
百日咳	-	-	0.14		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	0.86															
ヘルパンギーナ	4	0.17	0.02																			

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	48	女性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・1人、女性(50歳代)・1人
5	アメーバ赤痢	1	5	男性(50歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	5	男性(40歳代)・エイズ

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	報告数	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
広島市	第10週	533	13	47	259	17	-	-	9	2	1	14	6	-	3	-	1	-	-	-	1
	第11週	585	10	45	216	11	2	-	11	-	-	11	3	-	10	-	1	-	-	-	2
	第12週	491	15	52	208	19	-	-	4	-	1	6	3	-	5	-	-	-	-	-	6
	第13週	356	16	45	207	22	3	1	11	-	2	15	2	-	4	-	-	-	-	-	2
	第14週	190	8	36	168	32	-	-	10	-	4	9	-	-	2	1	1	-	-	-	6
広島市	第10週	14.41	0.54	1.96	10.79	0.71	-	-	0.38	0.08	0.04	0.58	0.25	-	0.38	-	0.14	-	-	-	0.14
	第11週	15.81	0.42	1.88	9.00	0.46	0.08	-	0.46	-	-	0.46	0.13	-	1.25	-	0.14	-	-	-	0.29
	第12週	13.27	0.63	2.17	8.67	0.79	-	-	0.17	-	0.04	0.25	0.13	-	0.63	-	-	-	-	-	0.86
	第13週	9.62	0.67	1.88	8.63	0.92	0.13	0.04	0.46	-	0.08	0.63	0.08	-	0.50	-	-	-	-	-	0.29
	第14週	5.14	0.33	1.50	7.00	1.33	-	-	0.42	-	0.17	0.38	-	-	0.25	0.14	0.14	-	-	-	0.86
全国	第12週	18.59	0.31	1.83	5.87	0.88	0.08	0.11	0.42	0.01	0.01	0.20	0.19	0.02	0.46	0.01	0.03	0.17	0.02	0.28	
	第13週	12.13	0.33	1.68	5.70	1.01	0.08	0.13	0.45	0.01	0.03	0.25	0.20	0.02	0.49	0.02	0.03	0.24	0.01	0.28	

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
川崎病	発熱(39.0) 紅斑 結膜炎 脳炎 脳症 リンパ節腫脹 意識障害	4	男	2013/12/07	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型
その他の呼吸器疾患	発熱(37.9) 上気道炎	不明	不詳	2014/02/24	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
その他の消化器疾患	発熱 嘔吐 腹痛	4	女	2014/02/20	糞便	ノロウイルスG2群
その他の疾患	発熱(38.8)	0	男	2014/02/19	咽頭拭い液 髄液 糞便	エコーウイルス30型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市におけるロタウイルス検出状況及び基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数

図1 迅速診断キットによるロタウイルス検出状況

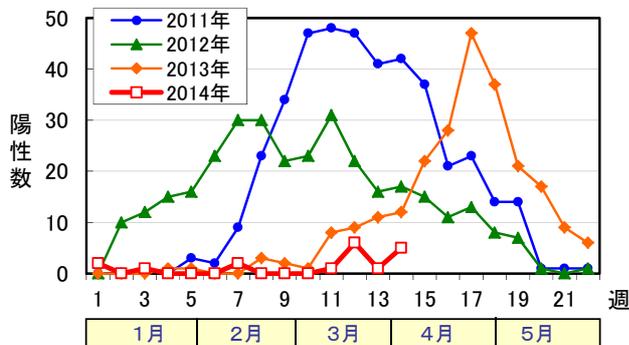
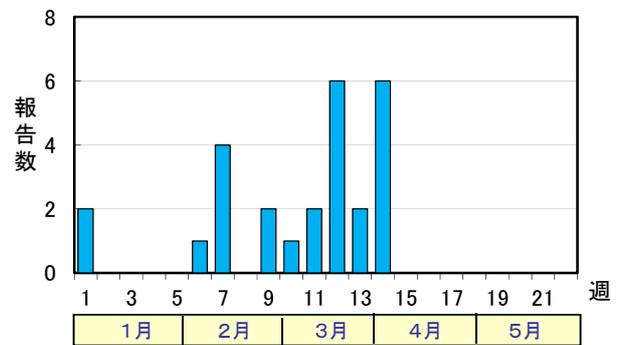


図2 基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数



感染性胃腸炎の原因ウイルスとしては、例年、全国的に、12月から2月頃はノロウイルス、3月から5月頃はロタウイルスが多くなる傾向があります。市内の基幹病院2か所によるロタウイルスの迅速診断キット検査結果(図1)では、今年は過去3年と比べて少なく、前々週から若干検出されるようになり、今後の動向に注意が必要です。

また、昨年10月から、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)が基幹定点による届出対象疾患に追加されましたが、その報告数も徐々に増加しています(図2)。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎は、ノロウイルスに比べると患者の年齢層がやや低く(6か月から2歳くらいの乳幼児に多い)、症状が少し重い傾向にあるといわれています。健康管理に注意し、手洗いの励行など、感染予防対策を心がけましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第14週(3月31日~4月6日)